食品安全委員会（第935回会合）議事概要

日 時:令和6年3月26日(火) 14:00~16:04
場 所:食品安全委員会大会議室
出席者:山本委員長ほか6名出席
傍聴者:一般73名

(1) 食品安全基本法第24条の規定に基づく委員会の意見の聴取に関する リスク管理機関からの説明について

- ・ 添加物 1品目
二炭酸ジメチル

→厚生労働省から説明。

本件については、食品安全基本法第11条第1項第2号の「人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるとき」に該当すると認められる旨を厚生労働大臣に通知することとなった。

- ・ 遺伝子組換え食品等 2品目
PRO-No.1株を利用して生産されたL-プロリン
Streptomyces mobaraensis TTG-1号菌を利用して生産されたトラングルタミナーゼ

→厚生労働省から説明。

本件については、遺伝子組換え食品等専門調査会で審議することとなった。

- ・ 遺伝子組換え食品等 1品目（評価申請の取下げ）
CA02-1191株を利用して生産されたL-グルタミン酸ナトリウム

→厚生労働省から説明。

本件について、取り下げる事となった。

- ・ 器具・容器包装 2案件
食品衛生法第18条第1項の規定に基づき、食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）に定める器具及び容器包装の規格を改正することについて（食品用器具・容器包装の材質別規格、用途別規格等の改正について）
食品衛生法第18条第1項の規定に基づき、食品、添加物等の規格基

準（昭和34年厚生省告示第370号）に定める器具及び容器包装の規格を改正することについて（食品用器具・容器包装のポジティブリストの改正について）

→厚生労働省から説明。

本件については、食品安全基本法第11条第1項第2号の「人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるとき」に該当すると認められる旨を厚生労働大臣に通知することとなった。

（2）農薬第五専門調査会における審議結果について

・「エスプロカルブ」に関する審議結果の報告と意見・情報の募集について

→担当の浅野委員及び事務局より説明。

本件については、意見・情報の募集手続に入ることとし、得られた意見・情報の整理、回答案の作成及び評価書案への反映を農薬第五専門調査会に依頼することとなった。

（3）遺伝子組換え食品等専門調査会における審議結果について

・「遺伝子組換え食品（種子植物）に関する食品健康影響評価指針（案）」及び「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物に関する食品健康影響評価指針（案）」に関する審議結果の報告と意見・情報の募集について

→担当の川西委員及び事務局から説明。

本件について、意見・情報の募集手続に入ることとし、得られた意見・情報の整理、回答案の作成及び評価書案への反映を遺伝子組換え食品等専門調査会に依頼することとなった。

（4）プリオン専門調査会における審議結果について

・「牛肉骨粉等の鶏・豚等用飼料への利用に係る食品健康影響評価」に関する審議結果の報告と意見・情報の募集について

→担当の山本委員長及び事務局から説明。

本件については、意見・情報の募集手続に入ることとし、得られた意見・情報の整理、回答案の作成及び評価書案への反映をプリオン専門調査会に依頼することとなった。

(5) 食品安全基本法第24条の規定に基づく委員会の意見について

- ・動物用医薬品「ランピースキン病生ワクチン (Bovilis Lumpyvax-E) を接種した牛に由来する食品の安全性」に係る食品健康影響評価について

→事務局から説明。

本件については、動物用医薬品専門調査会におけるものと同じ結論、「本製剤が適切に使用される限りにおいて、本製剤を接種した牛に由来する食品を通じて人の健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えた」

との審議結果が了承され、リスク管理機関（農林水産省）に通知することとなった。

- ・遺伝子組換え食品等「JPAo012株を利用して生産されたフィターゼ」に係る食品健康影響評価について

→事務局から説明。

本件については、遺伝子組換え食品等専門調査会におけるものと同じ結論、

「JPAo012株を利用して生産されたフィターゼについては、「遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方」に基づき又は準用し食品健康影響評価を実施した結果、組換え体由来の新たな有害物質が生成され、肉、乳、卵等の畜水産物中に移行する可能性、遺伝子組換えに由来する成分が畜水産物中で有害物質に変換・蓄積される可能性及び当該成分が家畜等の代謝系に作用し、新たな有害物質が産生する可能性はないと考えられることから、改めて「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準」に準じて評価を実施する必要はなく、当該飼料添加物を摂取した家畜及び養殖水産動物に由来する畜水産物については、人の健康を損なうおそれはないと判断した。」

との審議結果が了承され、リスク管理機関（農林水産省）に通知することとなった。